

# ヤナギヌカボ

*Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara  
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

以前に若狭町、敦賀市、大野市で採集記録があるが、前回調査では敦賀市に稀産する状況であり、絶滅危惧Ⅰ類とされた。今回調査では、生育状況が不明であるので、引き続き県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

## 種の特徴

湿地や水辺に生える一年草。茎の下部は地を這い、節から根をだして広がり、上部は斜上して盛んに分枝する。同様に葉が狭披針形から線形であるヌカボタデに比べて、葉の質がやや堅く、ホンバイヌタデに比べて花穂がやや長く花がまばらにつく。

## 分 布

本州、九州に分布する。県内では若狭町、敦賀市、大野市に分布する。

## 生育を脅かす要因

湿地の開発による生育地の消失や乾燥化、植生遷移が生息を脅かす主要因と考えられる。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、北村四郎・村田源（2008）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○										○	

# サデクサ

*Persicaria maackiana* (Regel) Nakai  
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

県内では稀産種で、湿地環境の消失や生育条件の悪化によって減少している。2地点で確認されているだけである。

## 種の特徴

低地の水辺に生える一年生草本。茎は斜上するか直立して、多くの枝を分け下向きの刺毛がある高さ30～100cmになる。葉は有柄、披針状長楕円形～披針形、先はとがる。花期は7～10月。総状花序は短い頭状となり、2～5花をつける。

## 分 布

本州～九州に分布する。県内では嶺北地方に分布する。

## 生育を脅かす要因

湿地開発、河川敷の改修、自然遷移の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				○

# ノダイオウ

*Rumex longifolius* DC.  
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

多くの生育地で生育条件が悪化している。

## 種の特徴

道ばたや畑地等に生える多年生草本。草丈1m以上になる。葉長20～35cm。下葉は、長柄があり、長楕円形で先は円形から鈍頭である。上葉は次第に小さくなり披針形である。果の翼状鱗片は、ほぼ全縁で、中脈はふくれない。

## 分 布

北海道～本州（中部地方以北および和歌山県）に分布する。県内では大野市、福井市、池田町、坂井市、永平寺町、南越前町、敦賀市、若狭町に記録がある。

## 生育を脅かす要因

土地造成、道路改修工事、自然遷移の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔（1982b）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○		○	○	○	○					○	○